

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600197		
法人名	社会福祉法人勝縁福祉会		
事業所名	社会福祉法人勝縁福祉会ひごろもそう		
所在地	山口県防府市大字浜方8番地1		
自己評価作成日	令和5年3月31日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年8月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年施設の夏祭りを行い、地域の方との繋がりを大切にしていたが、コロナウィルス感染拡大防止予防のため、施設職員、ご利用者様で行った。  
ご利用者様が地域の方との繋がりが出来てない分、行事ごとを月1回以上行い、楽しんで頂き、季節を感じて頂き生活にメリハリが出るように心がけている。  
また、この施設を担う若い職員を育てる人材育成にも力を入れており、研修、会議など意見を言える場、考える場、発表する場を設け、職員一人一人が自発的に行動できるようスキルアップに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の職員は、多岐にわたって行われる法人内での研修に参加し、月に1回のユニット会議で各委員会での内容を持ち寄り、話し合いを行い支援に活かしている。地域との付き合いは、今年は恒例の夏まつりで法人と共に、数台のキッチンカーなどを呼んだイベントを用意し、利用者の楽しみに繋げている。医療関係では、かかりつけ医、訪問看護、かかりつけ薬局、そして介護職員が常に情報を共有し、健康管理を行っている。特に薬に関しては職員は薬剤の知識を把握し、薬の重複をさけたりまた誤薬がないよう気を配っている。日頃の介護を担っている職員は、情報を共有し職員間の信頼関係を築き、外国人技能実習生の受け入れや、研修も各目的や希望に沿って参加し、資格取得に対しても法人はバックアップしスキル向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの事業所理念をつくり、いつでも確認できる場所に掲示して共有して実践につなげている。	法人理念は身近な目に触れる場所に掲示し、見える化することで職員の意識を共有している。職員は法人の研修に参加し、その後事業所で内部研修を行ったり、ミーティングを通じて利用者の思いを汲み取り、理念のもとに実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦であるため活動も制限されているが自治会へ加入し清掃活動等には参加している。行事ごとの食材の買い出しは地域のスーパーを利用している。	事業所は町内会に加入している。コロナ禍でイベント等に出掛ける事が出来ないが、職員は町内清掃に参加し地域の様子を見聞きしてきた事を、利用者に伝えるなど地域交流の支援に努めている。今年の夏はしばらく途絶えていたイベントを行うため、キッチンカーを数台用意し、法人と共に準備を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向け活かしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の評価について改善点を話し合い取り組んでいる。自己評価表は閲覧できるように管理者がまとめている。	管理者は自己評価の作成にあたり、ユニット会議で職員の意見を聞き、評価の意義や理解に活かしている。職員は技能実習生も含め、サービスの向上の目的を理解しながら取り組み、事業所は今後も評価の結果を振り返り、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の予定を立てているがコロナ渦のため現在は中止している。	対面での開催が困難なため、書面会議で行っている。会議は自治会長、民生委員、市役所の高齢福祉課の担当者や事業所職員等で開催している。事業所は活動報告や事故報告を行っている。また要望があれば意見を検討し、サービスの向上に活かす取り組みがある。	会議は研修報告や関係者のアドバイス、家族や地域住民からの質問など更に内容を工夫した取り組みに期待したい。また現状では家族の参加がないため、今後の改善課題の情報共有のためにも、家族に会議録の送付についての対応が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市長担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情を伝え連携を取るようしている。議事録提出、介護保険更新など市との連絡を密にするようしている。	市介護保険課の担当者のもとへ、月に1回窓口に出掛け申請書類の提出や相談、運営推進会議の議事録を提出する等、日頃から協力関係を築いている。また市町で行う研修を活用し情報を得て、市町と連携しながら協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で見直す機会を作り、事業所内の月1回会議内での話し合いの実施マニュアルにより全職員には徹底している。出入口にはチャイムを設置。夜間のみ施設玄関を施錠している。	職員は、身体拘束をしないケアの大切さは、研修や実践をもとに把握している。例えば不適切ケアの言葉による拘束も、ユニット会議で話し合い『少しお待ちいただけますか』など、言葉の使い方に気を配りながら支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修の実施。事故報告書の内容を毎月ミーティングで話し合っている。介護時、複数の職員が関わるため、利用者様の身体の観察、チェックを行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会を持ち、今後も活躍できるように支援していきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定時は不安や疑問点を尋ね、ご理解いただけるように説明をして署名捺印を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの相談、苦情内容を含め職員が真に受け止め反省、改善に反映し外部へ表す機会を設け、更なるステップアップに繋げている。	家族の来所は新型コロナウイルス感染症のため、現在も面会を制限しているが、家族の要望は出来る限り反映させるよう取り組んでいる。利用者の様子は定期的に、手紙や電話、面会など利用者に沿った支援をしている。職員は利用者や家族の要望は理解しており、出来るだけ運営に反映させるよう努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内で事故委員会、栄養委員会、教育委員会、行事委員会、感染委員会、褥瘡委員会、運営委員会等があり、意見や提供を積極的に採用し反映させている。	職員からの意見は会議の場のみでなく、様々な場面で聞く機会を持ち、働きやすい環境を作る為の体制はある。職員からの要望があれば会議で話し合い、必要に応じてシフトの改善やケアの工夫を見直す等、意見の反映に取り組んでいる。研修や資格取得にも事業所は積極的にバックアップしている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員に労働時間、給与水準、やりがい等、各自向上心を持って働けるよう職場環境、条件設備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設事業所との施設研修に参加し、ケア実践能力の向上に努めている。グループホーム独自の研修も行ってはいたが、現在は出来ていない状況である。	職員からの意見を聞く機会を設け、働きやすい環境を整えている。また日々のケアの工夫など話し合い、職員から情報を得て業務改善を行っている。職員の研修の参加や資格取得等も、法人は出来る限りバックアップし、職員一人ひとりに合った育てる取り組みがあり、能力の向上に反映させている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークや勉強会、相互訪問等の活動を通じてサービス向上のための取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の思いを傾聴することで心から要望が言葉になって本人様との信頼関係を確率させていける。安心感が大きく変わる。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安なことを要望に傾聴しながら関係づくりに務める。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が一番必要としている支援に対してサービスを提案し、検討する。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人を介護される一方の立場に置かず暮らしを共にする同士の関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切に、共に支えていくという関係を連携し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この一年間は、コロナウィルス感染拡大防止予防のため、施設全体の対策として、外部の方との接触はなるべくしないようにしているが、窓越し面会などでご本人様とお会いすることができるよう支援に努めている。	馴染みの場所に出掛ける事が困難な現状ではあるが、家族など人との繋がりを大切に支援している。例えば本人、家族の要望で県内のお寺へ、家族の協力のもと法事に出掛けた事例もある。また近くの桜の名所にみんなで出掛けたこともあり、職員は途切れない関係の継続を支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を理解し、共同空間の席並びは考えて配置をし、利用者同士が楽しく関わり合いを持っていただけるように支援している。何かある際は職員が間に入るようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の今までの人生を否定せずに思いを聞き対応する。人生観、価値観の違いはあっても利用者様に寄り添う気持ちを持って接するようになっている。	普段の関わりの中で利用者の思いを職員は聞き取り、計画作成担当者に伝えている。意向の表出が困難な場合は、生活歴を参考に編み物やカラオケなど、また以前の職業を活かして簡単な書類の整理を手伝ってもらうなど、表情、様子なども含め、職員は意向を把握しながら支援している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	傾聴による情報収集、生活歴、暮らし方、生活環境を知る。家族、友人からも情報を得る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、その日のご本人様の状態を観察し、細やかな変化に気付くようにし、心身の状態の現状把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が笑顔で楽しく、ゆったりとした気持ちで過ごせるために、関係者と話し合い、現状に添った介護計画を作成している。	職員が毎日、計画の実施状況を確認し、月に1回モニタリングを行い計画を見直す際に評価を行っている。家族の要望は面会時に確認し、計画作成担当者が職員の意見を聞き取り、更に医師や看護師の意見を取り入れ、必要であれば管理栄養士の意見も聞き計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録にて日々の様子、ケアの実践、日々の気づきなどは残している。また申し送りノートを活用し職員間での情報共有を行っている。日々のご様子はケアマネジャーが詳しく支援経過に記録し、個別のケアに役立てている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人お一人は今までの人生を生きて来られている。個人個人が違って当たり前なので、その時々によって生まれる問題を職員間、多職種と連携を取りながら柔軟な支援が出来るよう取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	どのような生活をおくりたいか？本人様が職員にヒントを話されたいとき、どう気付くか、援助はどうしたら良いのか分からない時は、毎月1回のユニット会議の場で話し合い解決していくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、事業所に関連のある病院の医師と連携し、本人様、ご家族様のご意向に合った医療が受けられるように支援している。	利用者は月に1回、定期的を受診している。事業所のかかりつけ医(協力医)は、内科、外科、皮膚科等13科目の診療を行い入院対応も出来る。訪問看護も定期的に行われ、24時間オンコール対応で、薬剤師とも連携しながら適切に支援している。歯科は必要時に家族の協力のもと受診している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の関わりの中で変化、気が付いた点を看護職、訪問看護に報告、相談する。内容によるが必要であれば医師の助言を聞き、看護師からの指導を受けながらケアしていく。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、治療方針など、本人様、ご家族様が安心して説明を受けられるように支援する。退院時には、毎日の生活で気を付ける点、観察が必要な点など情報を病院と共有し確認する。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のご希望をきちんと話し合い確認しておく。施設で出来る事を十分に説明しご家族様にご理解いただく。	利用開始時に家族等に説明を行い、重度化した場合改めて家族と話し合い同意書を交わし、方針を共有し支援する体制がある。最近事業所での看取りはなく医療機関や他の施設等へ移っている。職員は家族の気持ちに寄り添いながら、安心して支援が出来るよう取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止には、自己報告書より自己分析を行い、再発防止に取り組んでいる。定期的な研修、施設マニュアルでの確認・復習は行っているが、全職員が出来ていないため、研修、指導を行っていくところである。	突発的な事故や発熱、転倒などに加え、新型コロナウイルス感染対応など体調の変化が起きた時、発生時の備えを職員は話しあっている。日頃の様々なヒヤリハット等も、『なぜなぜ分析シート』で要因を職員間で共有し対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所と年2回合同で、昼夜を想定しての避難訓練、通報訓練、消火訓練を行っている。定期的な研修、施設マニュアルでの確認、復習は行っているが、全職員ができていないため、研修・指導を行っていくところである。	夜間想定を含め年2回の避難訓練を行っている。風水害対策は、ハザードマップで地理的環境を確認し、危険性や山崩れなど様々なパターンを想定して災害に備えている。事務所にはマニュアルを分かり易い場所に掲示し、備蓄もローリングストックを行いながら数日分を確保している。	災害対策は事業所の環境を考慮し、更に話し合いを行うなど可視化することが望まれる。またシフトの関係で訓練に不参加の職員には、回覧などで実施内容を共有し、更には地域と協力関係が築けるよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で理解、再確認をしている。一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに気を付けて行っている。	排泄や、入浴を介助する際は、必要以上の肌の露出を避け、羞恥心に配慮している。利用者への支援方法の検討と実施、抵抗感を強く感じる日常生活の場面では、利用者が不快感を感じない方法、例えば呼び方を変え模索しながら会話するなど、一人ひとりの人格の尊重に取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴、余暇活動など声掛けをする際には、出来る限り自己決定して頂けるように声掛けを行っている。自己決定が困難な方には、その時の表情をよみとるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇活動など行う際には、利用者様に何をしたいか声掛けを行い、その日の利用者様の状態、ペースに合わせて支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には、鏡を見て、整容、整髪を整えて頂いたり、ご自身で着替えの服を選んで頂いたりしている。できない方には、声掛けをしたり、整容を行ったりと支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併用の厨房で調理している。調理レクリエーションでは日頃食べられない物や旬のものを入居者の要望を聞き、食材の調理を職員と共に行っている。リクエストメニューを取り入れて楽しい食事の提供になるようにしている。	食事は法人運営の配食を利用している。主食のご飯やおかゆは職員が手作りし、希望で毎日パン食の利用者もいる。毎月季節やイベントに合わせた行事食も工夫している。食事環境においてもイスの高さ(足置き)等調整し、気配りしながら楽しい食事ができるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の献立については、管理栄養士にて作成され栄養バランスを取っている。24時間シートにて食事量、水分量の記載を行い、食事形態の見直し、変更を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。口腔内に異常がある際は、歯科受診・往診をご家族様に確認し行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間シートを利用し排泄パターンや利用者に合った声かけを職員が把握しており、その都度声掛けを行っている。	トイレは3か所あり、男性用が設置されている個所もある。職員は褥瘡委員会で研修を受け、『おむつ外し取り組み支援』を活用し、紙パンツから布パンツへ変更出来る利用者もいる。便秘の利用者には、食事や運動を行う等、出来る限り薬に頼らない支援を実践している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間シートを活用し、確認、把握している。余暇活動で身体を動かして頂いたり、趣味活動をして頂いたり、1日の生活リズムを整える支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個浴で入浴される利用者様は週3回以上入浴できるように支援を行っている。時間帯は大体午前中になっているので職員都合になっている所もある。	入浴の頻度は週2～3回午前より、利用者一人ひとりの暮らし方や希望に合わせ、快適な入浴を行っている。困難な場合には声掛けのタイミングを図ったり、一般浴が難しい利用者には法人のチェア浴を利用するなど工夫しながら支援している。今は使用していないが、近くの関連施設で大浴場もある。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間よく安心してに眠って頂けるよう日中余暇活動で身体を動かして頂いたり、一日の生活リズムを整えるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬科の情報を綴りにし、すぐに確認ができる状態にしている。服薬内容変更の際は、申し送りノートに記載し、職員間での情報共有を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯畳み、調理レクリエーションの食材調理等、役割を作り、活躍できる場の提供を行っている。余暇活動として散歩をしたりと気分転換を図る支援をしている。	職員は利用者の生活歴を参考に、歌・レクリエーションなど特技を活かした取り組みがあり、家事の好きな人は家事作業をしている。中には編み物が好きで自分のセーターを作っている利用者もいる。職員は利用者が楽しめる支援をチームで行っている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルス感染拡大防止予防のため、施設外への外出支援は出来ていない状況である。施設敷地内では、行事、散歩時など出て頂き支援を行っている。	出掛ける事が困難な現在、職員は”利用者が感じる外出”を考え、外の風を楽しんで貰うため、天気の良い日は玄関先の桜をながめ外出の気分を味わっている。今後は状況が落ち着けば人気の道の駅に出掛ける取り組みがある。職員は喜んで安心してもらえる外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時のお小遣いや医療費などはご家族様より現金をお預かりし管理している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様、ご家族様が必要な時には施設の電話などで電話をされたりしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所前には、利用者の混乱がないように社用車以外の車は置かないようにしている。共用の空間などには季節を感じられるように飾りつけを行っている。温度、室温調整、喚起を行い、居心地よく過ごせるようにしている。	壁には協力して作成した手工芸が飾ってある。フローアには手すりバーを設置し安心して歩行出来るよう配慮している。事業所の入口側には職員や看護師の詰め所があり、利用者が毎日を安心して暮らせるよう見守り支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、居室にて過ごされたい利用者様は過ごされたり、共同空間は気の合った利用者同士で過ごせるように席の配置を配慮したり、ソファ席で過ごして頂いたり工夫を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が以前使用していた使い慣れた家具などをそのまま使用し、利用者それぞれに合わせた居室の配置を工夫し、居心地よく過ごせるようにしている。	室内はベット、エアコン、洗面台が備え付けられている。家族が持参した孫の写真や、引き出し式チェストを置いている利用者もいる。また中には仏壇を持ち込む人もいる。入口には名札が掛けてあり、職員は利用者ひとり一人が、居心地よく暮らせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の残存機能を把握し、「できること」「わかること」を活かし、支援、介護を行っている。安全に生活できるように環境整備を日々行っている。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひごろもそう

作成日 令和5年9月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	自己評価の意義と項目の理解	<ul style="list-style-type: none"><li>自己評価の出来ていない部分に関して、評価に沿って業務を行い、より良い支援を目指す。</li><li>特定技能生にも伝えられる所は説明をし、理解して頂くようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>自己評価の開示と職員が熟読する。</li><li>月一回のユニット会議でも話し合いの場を設ける。</li></ul>	12ヶ月
2	32	応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施を行う	<ul style="list-style-type: none"><li>応急手当や初期対応について全職員が対応できるようにする。</li><li>特定技能生にも伝わるように指導を行う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>訪問看護師職員に協力を得て、応急手当や初期対応の研修を行う。</li><li>職員が応急手当等の研修内容を考え実施する。</li></ul>	12ヶ月
3	36	地域の人たちとの協力体制を作る	地域の避難所の理解と災害時の対応の訓練を行う。 <ul style="list-style-type: none"><li>防災訓練など行う際には、横入川自治会に声をかけ地域住民と共に行動する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>横入川自治会に参加依頼をする。</li><li>地域の方が災害が起きた時の避難時の訓練を行う。</li><li>実施は年2回とする。</li></ul>	12ヶ月
4	2	地域の人と日常的に交流が出来るような工夫を行う	<ul style="list-style-type: none"><li>運営推進会議にてテーマと自治会との話し合いの場とし地域との関わりを増やしていく。</li><li>ボランティア団体などに声をかけ、慰問の依頼を行う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>運営推進会議にて、自治会長に相談し地域の行事などに参加できるような話し合いの場を作る。</li><li>地域のボランティア団体に慰問の依頼を行い、ご利用者様の余暇活動につなげる。</li></ul>	12ヶ月
5	5	運営推進会議を活かす工夫を行う	<ul style="list-style-type: none"><li>多職種、ご家族様、外部の人たちにも会議に参加して頂き、要望、助言等を頂く。</li><li>地域との交流が増える場になるようなテーマ作りや話し合いの場にする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>現在、他施設の運営推進会議のメンバーとなっているので、進行方法などを参考にし、自施設の会議で活かす。</li><li>ご家族様、地域の方と福祉関係者の方から要望、助言をいただき、当施設の交流が拡大するような場とする。</li></ul>	12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。